

薬剤部

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	27 人	
その他（技術補佐員等）	7 人	
合計	37 人	

2 教員の異動状況

川上 純一（教授）（H18.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	18.83	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	9 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	14 編	(14 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Mino Y, Naito T, Otsuka A, Takayama T, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: Cyclosporine alters

- correlation between free and total mycophenolic acid in kidney transplant recipients in the initial phase. *J Clin Pharm Ther* 36: 217–224, 2011
2. Hirano K, Maruyama S, Mino Y, Naito T, Kawakami J: Suitability of chemiluminescent enzyme immunoassay for the measurement of blood tacrolimus concentrations in rheumatoid arthritis. *Clin Biochem* 44: 397–402, 2011
 3. Mino Y, Naito T, Shimoyama K, Ogawa N, Kawakami J: Pharmacokinetic variability of mycophenolic acid and its glucuronide in systemic lupus erythematosus patients in remission maintenance phase. *Biol Pharm Bull* 34: 755–759, 2011
 4. Naito T: Evidence-based pharmaceutical care using therapeutic drug monitoring of immunosuppressants in clinical practice. *Jpn J Pharm Health Care Sci* 37: 277–287, 2011
 5. Osawa T, Naito T, Suzuki N, Imai K, Nakanishi K, Kawakami J: Validated method using liquid chromatography-electrospray ionization tandem mass spectrometry for the determination of contamination of the exterior surface of vials containing platinum anticancer drugs. *Talanta* 85: 1614–1620, 2011
 6. Naito T, Takashina Y, Yamamoto K, Tashiro M, Ohnishi K, Kagawa Y, Kawakami J: CYP3A5*3 affects plasma disposition of noroxycodone and dose escalation in cancer patients receiving oxycodone. *J Clin Pharmacol* 51: 1529–1538, 2011
 7. Naito T, Takashina Y, Yagi T, Kawakami J: Simple and rapid HPLC-UV method using an ultrafine particle octadecylsilane for determination of residual fentanyl in applied Durotep® MT transdermal matrix patches and its clinical application. *Chem Pharm Bull* 60: 56–61, 2012
 8. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Rapid simultaneous determination of voriconazole and its N-oxide in human plasma using an isocratic high-performance liquid chromatography method and its clinical application. *Clin Biochem* 45: 134–138, 2012
 9. Yagi T, Naito T, Mino Y, Takashina Y, Umemura K, Kawakami J: Rapid and validated fluorometric HPLC method for determination of gabapentin in human plasma and urine for clinical application. *J Clin Pharm Ther* 37: 89–94, 2012

インパクトファクターの小計 [18.01]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Harada K, Suzuki Y, Yamakawa K, Kawakami J, Umemura K: Combination of reactive oxygen species and tissue-type plasminogen activator enhances the induction of gelatinase B in brain endothelial cells. *Int J Neurosci* 122: 53–59, 2012

インパクトファクターの小計 [0.82]

（２）論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Naito T, Tashiro M, Yamamoto K, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of serum albumin level on free

- oxycodone pharmacokinetics, dose escalation, and central adverse reaction in cancer patients. *Basic Clin Pharmacol Toxicol* 109S: 151–152, 2011
2. Tashiro M, Naito T, Takashina Y, Kagawa Y, Kawakami J: Relationships between prochlorperazine pharmacokinetics and its clinical responses based on DRD2 gene polymorphisms in cancer patients receiving opioid analgesics. *Basic Clin Pharmacol Toxicol* 109S: 152, 2011
 3. 川上純一: イントロダクション: チーム医療推進の動向, 質の高い薬物治療を支えるチーム医療. *臨床薬理* 42: S163, 2011
 4. 内藤隆文: 集中治療部における TDM を通じたチーム医療 (感染制御を中心に), 質の高い薬物治療を支えるチーム医療. *臨床薬理* 42: S164, 2011
 5. 内藤隆文, 田代将貴, 山本圭祐, 賀川義之, 川上純一: がん悪液質のステージ分類に基づくオキシコドンの体内動態および臨床効果の個人差の評価. *臨床薬理* 42: S236, 2011
 6. 田中紀章, 内藤隆文, 八木達也, 平野公美, 土井松幸, 川上純一: 術後患者におけるフェンタニルとノルフェンタニルの体内動態に及ぼす CYP3A5*3 の影響. *臨床薬理* 42: S222, 2011
 7. 八木達也, 内藤隆文, 見野靖晃, 梅村和夫, 川上純一: 健常成人におけるガバペンチンの血中動態および経口バイオアベイラビリティに及ぼす制酸剤の影響. *臨床薬理* 42: S235, 2011
 8. Yagi T, Naito T, Yamada T, Nagura O, Doi M, Kawakami J: fAUC/MIC of linezolid was variable among critically ill patients. *Int J Clin Pharm* 34: 146, 2012
 9. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination of voriconazole and its N-oxide in human plasma using high-performance liquid chromatography and its clinical application. *Int J Clin Pharm* 34: 151, 2012

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 川上純一: 医療現場における薬剤師の将来戦略: 医療経済学の観点から. *医薬ジャーナル* 47: 1898–1902, 2011
 2. 丸山修治, 山川花朱美, 見野靖晃, 川上純一: 医療安全と薬剤管理に関わる DI 業務. *薬事新報* 2689: 709–715, 2011
 3. 川上純一: 薬剤経済学に関する話題. *ファルマシア* 47: 735–740, 2011
 4. 川上純一, 赤瀬朋秀, 佐藤博, 林昌洋, 恩田光子, 草間真紀子, 福田敬: 平成 22 年度学術委員会学術第 5 小委員会報告: ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討 (最終報告). *日病薬誌* 47: 952–956, 2011
 5. 本橋慎也: オキサリプラチン誘発末梢神経障害に対する Ca/Mg 投与は有効で安全か? トピックス. *ファルマシア* 47: 759–760, 2011
 6. 内藤隆文, 八木達也, 川上純一: 神経障害性疼痛患者におけるガバペンチンの体内動態に及ぼす OCTN1 の遺伝子変異の影響. *臨床薬理の進歩* 32: 82–89, 2011
 7. 内藤隆文, 川上純一: 多発性骨髄腫に対するプロテアソーム阻害薬ボルテゾミブの遺伝情報に基づく体内動態と薬効・副作用の個人差要因の解明. *公益財団法人中富健康科学振興財団第 22 回研究助成業績集* 22: 63–66, 2011

8. 川上純一: チーム医療の推進と病院薬剤師. 徳島県病薬会誌 89: 3-5, 2012
9. 川上純一: 巻頭言. 静岡県病院薬剤師会誌 61: 4-6, 2012
10. 内藤隆文: 抗がん薬による院内環境汚染と医療従事者被曝－抗がん薬の網羅的分析法の開発と汚染モニタリングの方法論の構築－. 薬学研究の進歩 28: 61-66, 2012
11. 川上純一, 堀雄史: 病院が所有する臨床データベースを用いた抗精神病薬の多剤併用および副作用発現の調査の方法に関する研究. 樋口輝彦 (代表), 稲垣中, 川上純一, 松田公子, 伏見清秀, 伊藤弘人: 慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 平成 23 年度総括・分担研究報告書, p.15-19, 2012
12. 川上純一 (代表), 木村通男, 堀雄史, 大江和彦, 中島直樹, 横井英人, 池田俊也, 斎藤嘉朗, 頭金正博: 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 平成 23 年度総括研究報告書, page 1-8, 2012

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 北田光一, 川上純一, 山田安彦, 伊藤善規: 薬剤師職能の評価のあり方を考える (座談会). Global Pharmacists 7: 3-6, 2011
2. 樋口輝彦 (代表), 伊藤弘人, 稲垣中, 川上純一, 松田公子: 慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 平成 23 年度総括・分担研究報告書, p.1-8, 2012

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一: 薬剤師としての対応. 大関武彦 (監), ステロイドハンドブック 2011, 協和企画, p.76-78, 東京, 2011 年
2. 内藤隆文, 川上純一: 計数・計量調剤 (2), (4). 病院・薬局実務実習東海地区調整機構 (監), モデルコアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト第 2 版, じほう, 東京, p.18-19, 25-27, 2011 年
3. 川上純一 (分担編集): 病院・薬局実務実習東海地区調整機構 (監), モデルコアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト第 2 版, じほう, 東京, 2011 年
4. 川上純一: 小児薬剤投与法の原則. 大関武彦, 古川漸, 横田俊一郎, 水口雅 (総編集), 今日の小児治療指針第 15 版, 医学書院, 東京, p.7-10, 2011 年

4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
--	----------

特許取得数（出願中含む）	0 件
--------------	-----

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	8 件	(690 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	3 件	(924.4 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	4 件	(30.8 万円)
(4) 財団助成金	2 件	(263.5 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 川上純一（代表），内藤隆文（分担）：平成 23 年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん性疼痛患者におけるオピオイド鎮痛薬の体内動態と薬効・副作用の変動予測法の構築」100 万円（平成 21-23 年度，360 万円）（継続）
- 内藤隆文（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，若手研究（B）「オピオイド投与患者におけるプロコロールペラジンの体内動態と薬効・副作用との関係解明」130 万円（平成 23-25 年度，330 万円）（新規）
- 丸山修治（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，若手研究（B）「治療抵抗性関節リウマチ患者におけるタクロリムスの薬効・副作用の変動予測法の構築」160 万円（平成 23-25 年度，330 万円）（新規）
- 山本知広（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，奨励研究「活動量計による消費カロリー測定に基づく栄養管理の有用性の評価とシステムの構築」60 万円（新規）
- 平野公美（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，奨励研究「関節リウマチ患者における遺伝情報に基づくタクロリムス投与設計法の確立」70 万円（新規）
- 笠原和香（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，奨励研究「小児に起因する医薬品関連のインシデント解析に基づく医療安全管理体制の構築」60 万円（新規）
- 八木達也（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，奨励研究「血液透析患者におけるファーマコメトリクスに基づくドリペネムの投与設計法の確立」50 万円（新規）
- 大澤隆志（代表）：平成 23 年度科学研究費補助金，奨励研究「シスプラチンの薬効・毒性マーカーを指向した DNA-白金架橋の高感度測定法の確立」60 万円（新規）

(2) 厚生労働科学研究費

- 川上純一（分担），樋口輝彦（代表），伊藤弘人，稲垣中，松田公子：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金，医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究」（平成 22-24 年度，858 万円）（継続）
- 川上純一（代表），堀雄史（分担），木村通男，大江和彦，中島直樹，横井英人，池田俊也，斎藤嘉朗，頭金正博：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金，医薬品・医療機器等レギュラトリ

ーサイエンス総合研究事業「医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究」（平成 23-25 年度, 834.4 万円）（新規）

3. 川上純一（分担），鈴木洋史（代表），堀内龍也，佐々木均，望月真弓，関根祐子，寺田智祐，伊藤晃成，杉浦宗敏，内野智信，山本武人，高田龍平，大野能之：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金，医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「薬剤師教育における実務実習指導薬剤師及び実務家教員に関する実態把握」（平成 23-25 年度, 520 万円）（新規）

（3）他政府機関による研究助成

1. 内藤隆文：国立大学法人浜松医科大学．平成 23 年度若手研究者の国際学会発表支援事業「Impact of serum albumin level on free oxycodone pharmacokinetics, dose escalation, and central adverse reaction in cancer patients」10 万円（新規）
2. 見野靖晃：国立大学法人浜松医科大学．平成 23 年度若手研究者の国際学会発表支援事業「Hydroxy-itraconazole pharmacokinetics varied between immunocompromised patients taking fixed dosage of itraconazole with oral solution formulation」10 万円（新規）
3. 八木達也：国立大学法人浜松医科大学．平成 23 年度大学院生の国際学会発表支援事業「fAUC/MIC of linezolid was variable among critically ill patients」5.4 万円（新規）
4. 山田尚広：国立大学法人浜松医科大学．平成 23 年度大学院生の国際学会発表支援事業「Simultaneous determination of voriconazole and its N-oxide in human plasma using high-performance liquid chromatography and its clinical application」5.4 万円（新規）

（4）財団助成金

1. 内藤隆文（代表），川上純一（分担），大澤隆志（分担），山川花朱美（分担）：財団法人政策医療振興財団．平成 23 年度研究助成金「製薬企業による医薬品リコールの実態調査とその要因分析」63.5 万円（新規）
2. 見野靖晃（代表），内藤隆文（分担），川上純一（分担）：臨床薬理研究振興財団，第 36 回研究奨励金（平成 23 年度）「全身性エリテマトーデス患者における代謝拮抗性免疫抑制薬のイノシンーリン酸脱水素酵素活性に基づく薬効評価」200 万円（新規）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	2 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
(3) 学会座長回数	0 件	8 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	2 件	35 件
(6) 一般演題発表数	6 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 5) 一般発表

ポスター発表

1. Naito T, Tashiro M, Yamamoto K, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of serum albumin level on free oxycodone pharmacokinetics, dose escalation, and central adverse reaction in cancer patients. 10th EACPT congress. Jun 2011 (Budapest, Hungary)
2. Tashiro M, Naito T, Takashina Y, Kagawa Y, Kawakami J: Relationships between prochlorperazine pharmacokinetics and its clinical responses based on DRD2 gene polymorphisms in cancer patients receiving opioid analgesics. 10th EACPT congress. Jun 2011 (Budapest, Hungary)
3. Yagi T, Naito T, Yamada T, Nagura O, Doi M, Kawakami J: fAUC/MIC of linezolid was variable among critically ill patients. 40th ESCP symposium. Oct 2011 (Dublin, Ireland)
4. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Simultaneous determination of voriconazole and its N-oxide in human plasma using high-performance liquid chromatography and its clinical application. 40th ESCP symposium. Oct 2011 (Dublin, Ireland)
5. Mino Y, Yamada T, Watanabe T, Naito T, Kawakami J: Hydroxy-itraconazole pharmacokinetics varied between immunocompromised patients taking fixed dosage of itraconazole with oral solution formulation. 46th ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibition. Dec 2011 (New Orleans, USA)
6. Hirano K, Naito T, Mino Y, Ozono S, Kawakami J: Impact of CYP3A5 genetic polymorphisms on cross-reactivity of blood tacrolimus levels measured by chemiluminescent immunoassay in kidney transplant recipients. 46th ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibition. Dec 2011 (New Orleans, USA)

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 川上純一: ジェネリックへの関わりと薬剤師の現状と今後: 病院の管理・経営やチーム医療への貢献を目指して. 第 50 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 高松, 2011 年 11 月
2. 川上純一: 電子医療情報を用いた医薬品副作用解析の実際: 今後の医薬品副作用対策への電子医療情報を用いた薬剤疫学解析の貢献. 第 8 回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム「電子医療情報の医薬品安全対策への応用」, 日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会, 東京, 2011 年 12 月

3) シンポジウム発表

1. 川上純一: ジェネリック医薬品と病院医薬品マネジメント. シンポジウム: 後発医薬品使用推進のための取り組み, 第 28 回日本医学会総会, 東京, 2011 年 4 月
2. 川上純一: チーム医療推進の動向: 質の高い薬物治療を支えるチーム医療. 第 32 回日本臨床薬理学会年会, 浜松, 2011 年 12 月
3. 内藤隆文: 集中治療部における TDM を通じたチーム医療 (感染制御を中心に). 質の高い薬物治療を支えるチーム医療. 第 32 回日本臨床薬理学会年会, 浜松, 2011 年 12 月

4) 座長をした学会名

1. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会 (6月)
2. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会 (8月)
3. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会 (10月)
4. 川上純一: 日本薬剤疫学会第17回学術大会
5. 川上純一: 第32回日本臨床薬理学会年会
6. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会学術講演会
7. 川上純一: 平成24年度診療報酬改定説明会
8. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会西部支部例会 (3月)

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一: Editorial Advisory Board: The Open Drug Metabolism Journal
2. 川上純一: 日本病院薬剤師会 理事
3. 川上純一: 日本病院薬剤師会 医療政策部 副部長
4. 川上純一: 日本病院薬剤師会 国際交流委員会 委員
5. 川上純一: 日本病院薬剤師会 学術委員会 委員
6. 川上純一: 日本病院薬剤師会 学術奨励賞選考委員会 委員
7. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会 会長
8. 鈴木吉成: 静岡県病院薬剤師会 理事
9. 内藤隆文: 静岡県病院薬剤師会 評議員
10. 鈴木吉成: 静岡県病院薬剤師会 学術部 委員長
11. 川上純一: 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2011 組織委員会委員
12. 川上純一: 国際薬剤疫学会 医薬品使用実態研究部会 運営委員
13. 川上純一, 内藤隆文: 日本医療薬学会 代議員
14. 川上純一: 日本医療薬学会 国際交流委員会 委員
15. 川上純一: 日本臨床薬理学会 評議員
16. 川上純一: 日本臨床薬理学会 第32回年会プログラム委員
17. 川上純一: 日本薬学会 医療薬科学部会 常任世話人
18. 内藤隆文: 日本薬学会 医療薬科学部会 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム若手世話人
19. 内藤隆文: 日本薬学会 医療薬科学部会 第5回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム副実行委員長
20. 川上純一: 日本薬学会 東海支部 幹事
21. 川上純一: 日本薬物動態学会 評議員
22. 川上純一: 日本薬物動態学会 学会活動活性化委員
23. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 評議員
24. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 国際委員会 副委員長

25. 内藤隆文: 日本 TDM 学会 TDM ガイドライン策定委員会 委員
26. 川上純一: 静岡県立大学 平成 23 年度教員特別研究推進費学外審査委員
27. 川上純一: 厚生労働省 第 97 回薬剤師国家試験委員会 委員
28. 川上純一: 厚生労働省 医道審議会 薬剤師分科会 専門委員
29. 川上純一: 厚生労働省・中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員 (診療報酬調査専門組織医療機関コスト調査分科会 委員)
30. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員 (薬価算定組織 委員)
31. 川上純一: 厚生労働省 チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ 委員
32. 川上純一: 厚生労働省 平成 22 年度診療報酬改定結果検証に係る調査検討小委員会 委員
33. 川上純一: 静岡県 薬事審議会 委員
34. 川上純一: 静岡県薬事振興会 理事
35. 川上純一: 静岡県薬剤師研修協議会 委員
36. 川上純一: 東海地区薬学部学生病院・薬局実務実習調整機構 委員
37. 川上純一: 科学技術振興機構 (JST) 地域イノベーション創出総合支援事業 査読評価委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	1 件

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 川上純一: Drug Metabolism Letters, Bentham Science Publishers, Editorial Advisory Board.

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 川上純一: J Pharm Sci (1 件) (USA)
2. 川上純一: Pharmacoepidemiol Drug Saf (1 件) (UK)
3. 川上純一: PLoS ONE (1 件) (USA)
4. 川上純一: J Pharm Pharmacol (1 件) (UK)
5. 川上純一: Biol Pharm Bull (1 件) (日本)
6. 内藤隆文: Biol Pharm Bull (2 件) (日本)
7. 川上純一: Eur J Clin Pharmacol (1 件) (Germany)
8. 川上純一: Drug Metab Pharmacokinet (1 件) (日本)
9. 川上純一: Ann Occup Hyg (1 件) (UK)

9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	6 件

(3) 学内共同研究	11 件
------------	------

(2) 国内共同研究

1. 鈴木洋史（東京大学）：脂質および脂溶性ビタミンの消化管吸収の個人差を規定する遺伝的要因の解明
2. 樋口輝彦（国立精神神経センター）：慢性疾患における多剤併用と副作用発現との関連に係る疫学調査の手法に関する研究
3. 賀川義之（静岡県立大学）：がん患者における制吐薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
4. 吉田直子（金沢大学）：がん化学療法における併用薬の使用実態調査と相互作用の予測に基づく安全性の確立
5. 徳永雄二（沢井製薬）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
6. 木村友美（ヤンセンファーマ）：がん化学療法におけるガイドラインの遵守状況の調査研究

(3) 学内共同研究

1. 小川法良（免疫内科）：全身性エリテマトーデス患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
2. 小川法良（免疫内科）：関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
3. 大園誠一郎（泌尿器科）：白金系製剤を含む化学療法中に発現した悪心・嘔吐の治療にかかるコストの調査研究
4. 大西一功（血液内科）：多発性骨髄腫における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
5. 土井松幸（集中治療部）：重症感染症患者における抗菌薬の血中動態、薬剤感受性および組織移行性の評価
6. 土井松幸（集中治療部）：手術後疼痛に対する鎮痛薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築:
7. 加藤明彦（血液浄化療法部）：血液透析患者における抗菌薬の血中動態、薬剤感受性および透析除去性の評価
8. 千田金吾（呼吸器内科）：非小細胞肺癌患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
9. 伊東宏晃（周産母子センター）：産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
10. 木村道男（医療情報部）：臨床研究情報システムを用いた副作用の検出方法の検討
11. 深水秀一（形成外科）：外傷・熱傷および手術創等の二次感染に対するアルベカシン高用量投与の治療効果と安全性の検討

10 産学共同研究

	平成 23 年度
--	----------

11 受賞

(3) 国内での授賞

1. 八木達也, 内藤隆文, 見野靖晃, 梅村和夫, 川上純一: 優秀演題賞, 第 32 回日本臨床薬理学会年会, 2011 年 12 月 (浜松). 健常成人におけるガバペンチンの血中動態および経口バイオアベイラビリティに及ぼす制酸剤の影響
2. 高科嘉章, 堀雄史, 大澤隆志, 吉田晃, 鈴木吉成, 川上純一: 優秀演題賞, 第 25 回静岡県病院薬剤師会学術大会, 2012 年 2 月 (静岡). チーム医療推進のための血液内科・緩和ケア病棟、サテライト薬剤業務への取り組み

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 川上純一: 薬剤師の病棟配置 (出演). ラジオ NIKKEI 「病薬アワー」, 2011 年 5 月 2 日
2. 内藤隆文, 見野靖晃, 川上純一: 薬剤師による医薬品情報の創出 (記事). 研究戦略 YAKU 学: 研究現場から臨床へ, 薬事日報 No. 10991, p.8, 2011 年 6 月 13 日
3. 川上純一: チーム医療の推進と薬剤師の役割 (ビデオ). 生涯研修認定制度 e-ラーニングシステム, 日本病院薬剤師会, 東京, 2011 年 9 月
4. 川上純一: シンポジウムのお話: 質の高い薬物治療を支えるチーム医療 (寄稿). 第 34 回日本臨床薬理学会年会, 薬事日報 No. 11059, p.12, 2011 年 11 月 25 日
5. 内藤隆文, 石田卓矢, 大澤隆志, 山川花朱美, 川上純一: 日本における医療用医薬品の自主回収の実態調査. 報道機関向け講演ハイライト, 日本薬学会第 132 年会, 2012 年 3 月 22 日